# ＪＡＳＳとともに２０年

運営委員　村　井　源　治

**前文**

会社を定年退職したとき、次なるセカンドライフを如何に過ごすか、それを自分なりに考えていた。まず①社会に役立つことをする②自分の能力を生かす③継続して取り組める事を見つける④健康に良いこと－こんなことを考えていたとき、会社がJASS会員社となり、同時に小生が運営委員に就任した。以下はJASSにおける足跡の回想記である。

**① 運営委員1年生**（H5年4月1日）

運営委員会に出席し、先輩同僚との交流を図る。イベント実施までの約半年、先輩のイベントに何回か参加し、イベント企画の立て方、当日の運営、事務処理のこと等々、大体の要領を得た。イベント企画は手づくりで、参加者には仲間意識で接することにした。当時は今日と違い、５月に提出した企画が秋号（11月～1月）に掲載された。

**② JASS俳句事始め**（H5年11月17日）

同時に就任した運営委員にH氏がいた。H氏は俳人なので、サークルの企画を出していた。これまで俳句とは縁のない自分であったが、どんなものか興味本位に申し込んだ。俳句の奥行の深さを感じながら、それ以来今日まで楽しく続けている。

**③ まず単発企画から**（H5年11月25日）

初イベントは「滄浪泉園と江戸東京たてもの園」というタイトルで実施した。当時両国に江戸東京博物館が開館し、その分館である小金井のたてもの園（元武蔵野郷土館）と、紅葉の名所である滄浪泉園を組み合わせた企画だった。下見も本番もH氏に手伝ってもらった。参加者は27名。晴天のもとで、晩秋のひとときを案内出来た。

**④ 活動事例集の編集に従事**（H6年11月1日）

JASS活動の広報冊子を出すことになり、編集グループの1人になった。各運営委員からイベント活動、サークル活動の原稿や写真を出してもらい、それをまとめる作業に携わった。制作は編集社に依頼し、翌年3月末に『いま、輝いて・手作りセカンドライフの事例集』というタイトルで発刊。

**⑤ 阪神淡路大震災に遭遇**（H7年1月17日）

活動事例集の座談会を編集社がまとめることになる。関東に続いて、関西地区の主な運営委員を集めて司会することになった。編集社の記者と前日、大阪・十三のホテルに着いた。ところが翌朝大地震に見舞われ、会場に出向いたものの出席予定者が現れず、中止してその日のうちに帰京した。

**⑥ NHK特別見学のこと**（H7年5月16日）

NHK・OBの紹介で「NHK放送センター特別見学」を実施した。定員の7倍、280名の申込みにびっくり。抽選で40名を選び、運営委員Oさんの協力を得て、二手に分かれて見学した。当日は大河ドラマの収録が見られた。ホールに移動し「歌謡コンサート」を見学していたところ、急に中止。オウム真理教の教祖逮捕というハプニングだった。

**⑦ JASSネット一般号の編集**（H7年9月1日）

当時の「JASSネット」は第三種郵便物であったため、季刊の本誌を出しながら、間の月に月刊の一般号を出していた。事務局からの依頼で、一般号の編集を2年間手伝った。「JASSネット」は、この冬号で通巻129号となる。

**⑧ シリーズ企画を開始**（H8年3月13日）

これまではイベントの企画を1件ずつ作って来たが、テーマを決め何回かに分けてやってみようと考え、手始めに玉川上水散歩を8回シリーズで実施した。それ以後シリーズ企画が主流となった。シリーズ企画は、企画するときは手間暇かかるものの、終わった時の充実感、満足感は格別である。

**⑨ イベント記録集を発行**（H11年3月1日）

JASSのイベントを始めてから5年過ぎたので、その間の記録を「JASSを生きる」というタイトルでまとめた。自費出版だが、ワープロで作成した誌面（B5判44ページ）をそのまま製版、記念写真を6枚入れて編集発行し、関係者に配った。

**⑩ イベントを二人三脚で**（H12年6月23日）

13年ほど前のこの日、「多摩丘陵自然散歩」の3回目、「松が谷歩道」を実施した。当日はあいにくの雨。それでも21名が集合。足の不自由なAさんも参加していた。Aさんは平成7年から12年間、数多く参加してくれた。仕事を辞めた直後の妻が、急遽手伝ってくれた。当日は予定を変更し、ひと駅モノレールに乗った。このとき以来、二人三脚でイベントを行うようになり、今日まで続いている。

**⑪ JASSネット本誌の編集**（H12年12月6日）

「JASSネット」の編集担当者が辞めることになり、急に本誌の編集を頼まれた。企画済みのイベントを実施しながら、1年間4号分(通巻78～81号)を引き受けた。なお78号からは、それまで続けてきた掲載月を1ヶ月繰り上げ、春号を4～6月掲載に改め、このときから現行のパターンになった。

**⑫ 3年18回の「古建築」**（H13年1月12日）

シリーズ企画の中で好評だったもののひとつに「古建築参観」がある。隔月年6回、3年間18回実施した。訪ねた先は36社寺。初回は上野東照宮と本行寺、終回は浦和の調神社と大宮の氷川神社だった。とりわけ東村山の正福寺に参拝したときの、国宝千体地蔵堂の内部を拝観できたことが記憶に残っている。イベントでは、参考書を要約コピーして配り、現地で説明し、理解してもらった。

**⑬ 朗読サークルを運営**（H14年4月1日）

これまでイベントだけの活動だったが、あるご縁で朗読のS先生が見つかったので、サークルを始めた。タイトルは「朗読を楽しむ会」とし、中野の喫茶店貸部屋でスタート。途中で新宿に変更しながら、文学作品から新聞記事まで各種の原稿を朗読して楽しんだ。しかしながら参加者が減少したため、やむなく5年間で解散。

**⑭ グルメ企画を始める**（H19年11月9日）

これまでは、散歩イベントの後に食事をとっていたが、発想を転換し食事をメインとして、その前に散歩したらどうかと考えて、「グルメ名店巡り」を始めた。初回は街歩きのあと、クリスマスショップ併設のフレンチレストラン・コロンバージュ（品川）で。このシリーズを20回実施し、現在は「老舗でランチ」というイベントを続けている。

**⑮ 執行役員を2年間**（H20年4月1日）

運営委員会のまとめ役。以前は幹事と呼ばれていたが、現在は執行役員と改称。東京Cグループの執行役員に選ばれた。事務局とのパイプ役でもある。

役足らずながら2年間務めあげた。

**⑯ 20周年記念冊子編集**（H22年10月1日）

JASS設立20周年を迎えて、東京、大阪、名古屋で感謝の集いが開催された。実行委員の1人としてこれに参画、記念冊子「セカンドライフ・皆様とともに20年」の編集に携わった。

**⑰ 仲間のイベントへの参加**（H24年7月1日）

毎号の「JASSネット」を見て、仲間の実施しているイベントに努めて参加してきた。この仕事を長く続けるための体力の維持、健康の保持のために、昨年「ゆる体操」に参加し、今も楽しんでいる。

**⑱ 単発企画の総括**（H25年1月10日）

イベント企画の大半は、シリーズ企画(3回以上)であったが、その中にあって単発企画も40件あった。一部を紹介すると、駒場周辺の緑と文化、早春のJASS事務所周辺、夢の島熱帯植物館、高尾山八十八大師、昭和のくらし博物館、紅葉のメタセコイアなど。単発企画はシリーズにこだわらず、スポットとしての役割を果たしてきた。

**⑲ シリーズ企画文化系の総括**（H25年11月19日）

シリーズ企画の文化系では、歴史探訪（七福神、江戸四宿、富士塚、国分寺址、都内の御山、名士墓碑、五日市街道、多摩城跡、藩邸跡地、府中街道、路地探索など14)、建物観賞（東京の洋館、古建築参観の2)、文学鑑賞（花万葉集、万葉歌碑、名作の舞台、東京文学散歩、武蔵野探勝今昔など6)、グルメ散策（2）という内容であった。

**⑳ シリーズ企画自然系の総括**（H25年12月3日）

自然系では、河川散策（玉川上水、神田川、野川、浅川、多摩川八景など6)、植物観察（街路樹、多摩丘陵など4)、野鳥観察（東京港野鳥公園、多摩川関戸など17)、自然探勝（四季の高尾山、武蔵野健康散歩、谷戸探訪の3）という内容。

以上のうち、好評だったイベントをリピートしてほしいとの声もあるが、ほとんど新企画を実施してきた。毎回つたない案内ながら、ご一緒に楽しんで下さるご参加の皆様に、心から感謝している。